

インターバンクの声（2014年11月7日）

米国の雇用統計発表前夜に注目されたのが欧州中央銀行（ECB）理事会。決定自体は、主要政策金利が現行の0.05%に据え置かれたが、ドラギ総裁が理事会後の会見でユーロ圏の景気刺激のためには非伝統的な手段も使うとの考えを改めて述べたことからユーロは1.23ドル台へ急落した。実に2012年8月以来の低水準までの下落だが、そのひと月前の安値だった1.20ドル台にまで達しそうな勢いだ。東京市場から見ていると、どうしても8月後半から12円以上も円安に動いてきたドル円相場ばかりに目が行ってしまうが、少し時間は掛ったものの5月からここまでのユーロの下げ幅も1.40ドル手前から1.23ドルまで0.16ドル以上となっている。単なる数字の遊びだが、ドル円の120円、ユーロ1.20ドルが同じ時期に取引される場面が年内に見られるのかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。